

不確実性が高まるなかで拡大する占いビジネス

～ 占いビジネスの市場規模は 4313 億円 ～

2006年 8月26日(土)

B R I C s 経済研究所 代表 門倉 貴史

E-mail: postbrics@yahoo.co.jp

～ 要 旨 ～

ビジネスや恋愛など人生の様々な分野で不確実性が高まるなか、近年では「占いビジネス」が盛況となっており、著名な占い師のもとには、自分の運勢を占ってもらおうと、占いマニアが行列をつくっている。一口に「占いビジネス」といっても、そこには様々な種類がある。占いビジネスは、大きく分けると命・ト・相の3つに分けることができる。「命」とは、生年月日、時間、生誕地といった情報をもとに人の運命や宿命を占うもので、統計学的な色彩が強い。四柱推命、西洋占星術、算命占星術などがこれにあたり、運命学とも呼ばれる。一方、「ト」は、占う対象と占題を絞り込んだうえ、占う時点の占機によって、近未来の吉凶を占うもので、タロットカード占い、トランプ占い、ホラリー占い、水晶占い、御神籤占いなどがこれにあたる。また、「相」は手や顔など目に見える形などから、現状や未来を推量する占うもので、手相占い、人相占い、家相占い、姓名判断などがこれに含まれる。

最近では、インターネットや携帯電話の普及によって、各種の占いがデジタルコンテンツとして提供されるようになっており、これが大きな利益を上げるようになってきた。ネット上の「占いサイト」では、対面占いに比べて、低料金で手軽に占いを楽しめることもあって、需要のすそ野が大きく広がってきている。需要の拡大を受けて、占いの種類も大幅に増えており、従来の「命・ト・相」に加え、それらを組み合わせた新しいタイプの占いも矢継ぎ早に登場している。「占い師」になるにあたっては特別な資格を必要としないうえ、固定費・変動費などもそれほどかからないため、「占いビジネス」への新規参入は容易だ。主婦やOLなどを中心に、副業として「占いビジネス」をはじめめる人も増加しつつある。ただその一方で、「占いビジネス」を隠れ蓑とした詐欺事件も増えてきており、消費者が占いをしてもらうにあたっては、事業者をよく選別する必要がある。

では、現状、日本の「占いビジネス」の市場規模はどれぐらいになるのだろうか。NTTのタウンページを使って占い事業者を集計すると、2006年8月現在、占い業を営む事業者は全国で1万1768業者に達する。地域別に事業者の分布をみると、人口規模の大きい大都市圏に事業者が集中しており、東京と大阪だけで全事業者の26.6%を占める。これに、サービス業基本調査の「他に分類されないその他の生活関連サービス業」(このなかには占い業のほかに結婚相談業や観光案内業なども含まれるため正確な占い業の売上高というわけではない)の1事業所あたりの売上高を掛けると、約4313億円となる。人々のモチベーションを向上させる「占いビジネス」は、デジタルコンテンツを中心に今後も拡大を続けていく可能性が高い。